

牛群検定通信 No97

～ 子牛の出生頭数の予測を開始しました！ ～

この5月7日から、国内の乳用子牛の出生頭数を予測できるシステムを開発し運用開始しました。乳用牛群検定全国協議会のホームページ（「牛群検定全国」で「検索」 <http://liaj.or.jp/kyogikai/> ）に掲載してあります。誰でも無料で利用できます。

1 概要

この予測情報は、乳用牛群検定で報告される授精情報がもとになっており、検定非参加農家も含めた統計予測です。8カ月先までに乳用牛から出生する子牛を、乳用種の雌と雄、交雑種にわけてそれぞれの出生頭数を予測します。区分は、都府県、北海道、全国の3区分での予測となっています。予測は毎月行い、多少変動します。

なお、予測には平均で5%程度の誤差を含みます。また、予測プログラムの性質上、予測として傾向が急変するような震災や新技術の急激な普及などの事態が発生すると予測精度が低減します。

2 5月以降の子牛の生産予測

前述のホームページに4月末時点の予測をグラフ表示してあります。出生の合計数では、平成29年12月～平成30年11月までの1年間で746,500頭の出生予測となっており、平成29年との比較（以下、「対前年」）で102%と子牛の増頭傾向が見えます。例年、暑熱期である8月の授精は繁殖成績も思わしくなく、その妊娠期間から翌5月には毎年、出生頭数が減少するのですが昨年の北日本及び東日本で冷夏であったため5月の減少が食い止められたことが全体的な子牛増頭の要因と考えられます。一方、子牛の種類毎に見ると、交雑種255,100頭対前年98%、雄は202,400頭対前年97%といずれも前年割れしています。これに対して、雌は288,800頭対前年109%と大きく頭数を伸ばす予測となっています。予測どおりであれば、平成21年度をピークに減少していた乳用雌子牛が平成29年度から8年ぶり増加に転じ、平成30年は28万頭を越える勢いです。

予測どおりであれば、乳用後継牛の確保としては明るい兆しとなります。

生産された雌子牛を事故や疾病等で失わないよう、飼養管理にも留意してください。

3 その他の情報

参考情報として黒毛和種（E T）の出生頭数や、分娩牛の頭数、交雑種生産率の情報も提供します。今後は毎月一度、月末に新しい予測情報を公表して行く予定です。また、その他にも、乳用牛群検定から得られる子牛情報として、性比、双子、死産、難産、早流産、また出生後の早期死亡といったいろいろな情報もあわせて公表します。